

インクルーシブ保育のパイオニア どんこ会グループ初 「児童発達支援センター」+「認可保育所」の併設モデルの実現へ 東京都東大和市と整備運営について協定を締結しました

社会福祉法人どんこ会は（本社：東京都渋谷区 理事長：安永愛香）2022年3月15日に東京都東大和市と、（仮称）東大和市児童発達支援センターおよび認可保育所等の整備運営に関する協定書を締結したことを発表いたします。

どんこ会グループ初「児童発達支援センター」+「認可保育所」 真のインクルーシブ保育の実践



（仮称）東大和市児童発達支援センターおよび認可保育所等のイメージ



違いを認めて頼りあい、手を差し伸べ合うことを学ぶ子どもたち

東大和市のこの施設は**どんこ会グループとして初の「児童発達支援センター」と「認可保育所」の併設モデル**となります。

どんこ会グループでは、障害の有無で子育てを分けず、認可保育所と児童発達支援事業所が一体となった併設モデルを推進してきました。ただ隣り合っているだけの施設をつくるのではなく、同じ敷地内、一つ屋根の下で、子どもたちが共に活動し、生活できる**「真のインクルーシブ保育」**を実践する施設づくりに取り組んでいます。

すべての子どもが共に遊び、学び、食べ、眠り、育ち、それぞれの個性のぶつかりあいを経験し、違いを認めて頼りあい、手を差し伸べあうことを学んでいくこそが、これからの**共生社会に向けての土台づくり**だと考えています。

地域の児童発達支援センターの廃園に伴う新しいモデルの提案

東京都東大和市にある「やまとあけぼの学園」は地域における児童発達支援センターとして、心身に気がかりのある未就学のお子様への支援を行ってまいりましたが、老朽化による廃園を余儀なくされました。市は2018年に（仮称）東大和市児童発達支援センターおよび子育て支援拠点の公募型市場調査を実施。2021年に第2次東大和市障害者総合プランに基づき、運営整備事業者を公募し、このたび優先交渉権者として社会福祉法人どんこ会が選定され、協定書を締結いたしました。

東大和市の発表はこちらとなります。<https://www.city.higashiyamato.lg.jp/index.cfm/33,105089,345,598,html>

すでに始まった**保育所淘汰の時代**。どんこ会グループでは、すでに運営中の認可保育所内のスペースを活用して児童発達支援事業所を設置するなど、将来のニーズを先取りした取り組みを実践してきました。この東大和市の併設モデルにおいても**保育所多機能化**を実践する姿を示し、日本の子育ての未来に貢献してまいります。

【本リリースに関するお問い合わせ先】

どんこ会グループ（東京都渋谷区渋谷 1-2-5 MFPR 渋谷ビル 13F）
広報部 松本 TEL：03-5766-8059 Email：koho@doronko.jp

(参考資料1)

どろんこ会の認可保育所と児童発達支援事業所の併設施設

開設年度	認可保育所名	児童発達支援事業所名	所在地
2015	駒沢どろんこ保育園	発達支援つむぎ 駒沢ルーム	東京都世田谷区
2016	ふじみ野どろんこ保育園	発達支援つむぎ ふじみ野ルーム	埼玉県ふじみ野市
2017	メリー★ポピンズ 桶川ルーム	発達支援つむぎ 桶川ルーム	埼玉県桶川市
2017	北千住どろんこ保育園	発達支援つむぎ 北千住ルーム	東京都足立区
2018	つつじヶ丘どろんこ保育園	発達支援つむぎ つつじヶ丘ルーム	東京都調布市
2018	宮下どろんこ保育園	発達支援つむぎ 宮下ルーム	千葉県君津市
2021	新羽どろんこ保育園	発達支援つむぎ 新羽ルーム	神奈川県横浜市港南区
2021	八山田どろんこ保育園	発達支援つむぎ 八山田ルーム	福島県郡山市

※宮下どろんこ保育園は、公立保育園を民営化する際に、児童発達支援事業所併設のインクルーシブモデルを提案して採択されました。

どろんこ会の児童発達支援事業所と児童発達支援センター

開設年度	認可保育所名	分類	所在地
2014	発達支援つむぎ 荻窪ルーム	児童発達支援事業所	東京都杉並区
2014	発達支援つむぎ 吉祥寺ルーム	児童発達支援事業所	東京都武蔵野市
2014	発達支援つむぎ 阿佐ヶ谷ルーム	児童発達支援事業所	東京都杉並区
2015	発達支援つむぎ 目白ルーム	児童発達支援事業所	東京都豊島区
2015	発達支援つむぎ 横浜西口ルーム	児童発達支援事業所	神奈川県横浜市
2016	発達支援つむぎ 横浜東口ルーム	児童発達支援事業所	神奈川県横浜市
2016	発達支援つむぎ 府中ルーム	児童発達支援事業所	東京都府中市
2016	発達支援つむぎ 池尻ルーム	児童発達支援事業所	東京都世田谷区
2017	発達支援つむぎ 調布ルーム	児童発達支援事業所	東京都調布市
2018	子ども発達支援センターつむぎ 浦和美園	児童発達支援センター	埼玉県さいたま市

どろんこ会グループの発達支援施設の一覧はこちらからもご覧いただけます。

https://www.doronko.jp/facilities_type/type-020/#condition

弊法人のホームページにて実際の取り組みを以下でご覧いただけます。ぜひご一読ください。

■宮下どろんこ保育園と発達支援つむぎ 宮下ルームの記事

「全ての大人が全ての子どもを育てる保育園」へ。どろんこ会が目指すインクルーシブ保育「保育園＋発達支援つむぎ」の取り組み <https://www.doronko.jp/action/20180830a/>

■併設施設のブログ（一例）

・発達支援つむぎ 北千住ルーム「待ちに待ったすいか割り」

<https://www.doronko.jp/blog/tsumugi-kitasenju20210915a/>

・発達支援つむぎ 八山田ルーム「いのちをいただく」

<https://www.doronko.jp/blog/tsumugi-yatsuyamada20211028a/>

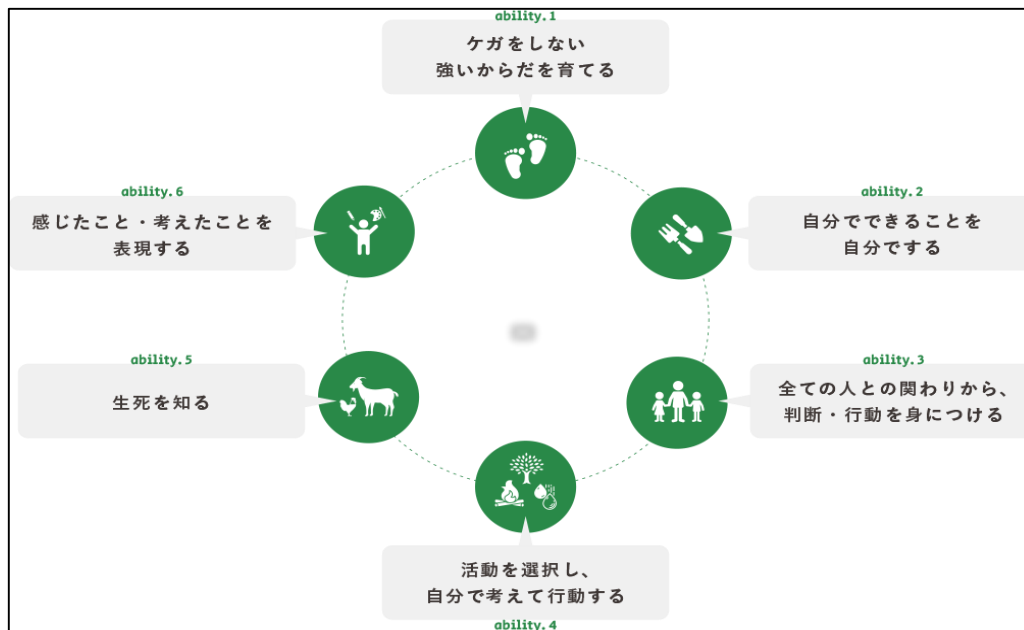
・発達支援つむぎ ふじみ野ルーム「つむぎふじみ野ルームの戸外活動」

<https://www.doronko.jp/blog/tsumugi-fujimino20211012a/>



(参考資料 2)

どろんこ会グループの子育てとは



どろんこ会グループの子育てでは、就学前教育の前段階から非認知能力を育むことに重きを置いています。そのために必要な6つの力を身につけることを目標としています。

1. ケガをしない強いからだを育てる

園では裸足で過ごし、長距離散歩や木登り、リズム体操、雑巾がけ、座禅を取り入れています。

2. 自分でできることを自分でする

子どもたちは畑仕事をし、自ら育てたものを調理する体験もします。給食のお米は、新潟県南魚沼市にある自社の田圃、植え付けから精米、発送まで自給自足で行っています。子どもたちは毎年田植え、稲刈りに参加します。

3. 全ての人との関わりから、判断・行動を身につける

0歳から5歳児が共に暮らす異年齢保育、そして障害の有無では分けないインクルーシブ保育を実践しています。地域の交流を大切に、商店街ツアーや青空保育を行っています。

4. 活動を選択し、自分で考えて行動する

火、水、土と関わることで、自然の事象に自ら気づき、考える力を養います。

5. 生死を知る

ヤギやニワトリなどの生き物の世話を通じ、命の重みを知ります。また、「命あるものを食している」ことを経験するための食育、命の大切さを学ぶ性教育も実施しています。

6. 感じたこと・考えたことを表現する

生活の中で自由に表現し創る環境を用意し、子どもが感じたこと、考えたことを表現できるよう保育計画を立てています。

どろんこ会グループ（社会福祉法人どろんこ会、株式会社ゴーエスト、株式会社日本福祉総合研究所、株式会社南魚沼生産組合）は全国約140箇所の認可保育園、事業所内保育所、児童発達支援センター、子育て支援施設等を運営。次代を担う子どもたちの「にんげん力」を育む体験型保育・自然保育を行う。幼児期の性教育や男性保育士比率の高さなど、各種メディアでもその取り組みが紹介されている。1998年設立。職員数約2000人。利用者数約7000人（2022年3月現在）

HP : <https://www.doronko.jp/> Facebook : <https://www.facebook.com/doronkokai/>

Twitter : @doronko_offical Instagram : @doronko_official/

Youtube : <https://youtu.be/d-SV7YuQmIM>